

すぐに取り組める
家庭学習のすすめ
ヒント集



家庭学習の大切さが改めて注目されています。
発達段階に応じた**家庭での支援のあり方**や、**家庭学習を習慣化するための3つのポイント**、**ヒント集**をリーフレットにしました。
お子さんの様子を見ながら家庭学習をすすめてみませんか？

中学年(3・4年生)

子どものやる気を支え、
学習習慣の定着を図りましょう



家庭での支援のあり方

(1) はじめに

この時期の子どもは、学校生活にも慣れ、活発に活動するようになります。カード集めなど好きな事に熱中したり、グループで遊ぶことも増えてきます。自己主張も強くなり、かつ行動範囲が広がり、思わぬところで遊んでいたりと、自転車で遠出していたりすることも…。

たしかに、自分でやろうとすることは低学年のときに比べ増えてきますが、家庭で学習する(宿題をふくむ)習慣をしっかり身に付ける上では、**保護者のサポートがまだまだ必要**です。学校での様子を話題にするとともに、宿題や持ち物を時々点検するなどしてお子さんの学習への取り組みを応援しましょう。

(2) やる気を引き出す保護者のサポート

- ・子どものがんばりを**認め**、できたことを**ほめ**ましょう。
- ・子どもの考えやさまざまな疑問に真剣に**向き合**いましょう。あいまいなことは一緒に調べましょう。

(3) 望ましい学習習慣を身に付けるために

- ① 学習する時間帯を決める。
- ② 学習する場の整理整頓を徹底する。
- ③ 今日やるべき課題を確認する。
- ④ 学習時は、テレビなどを消す。



「家庭学習」を習慣付けるための3つのポイント



千葉県PRマスコットキャラクター

チーバくん

ポイント1 時間を大切にすることを意識を育てましょう

- 時間を大切にすることで、計画性が養われます。

「今日、家に帰ったら、まず国語と算数の宿題をやろう。終わったら、〇〇くんと遊んで...」



やりたい“こと”・やるべき“こと”・やらなければならない“こと”等がたくさんあって、子どもは子どもなりに毎日「いそがしい」のです。

でも、自分の時間をどう使ったらよいかかわからず、やりたい“こと”が優先され、やるべき“こと”等が後回しになったり、時間を無駄に過ごしたりしてしまいがちです。

子どもが小学生のうち、時間の使い方を本人まかせにせず、自主性を尊重しつつも、親がある程度管理してやる必要があります。

ポイント2 認めて・ほめて・励まして、やる気を育てましょう

- 子どもとのコミュニケーションの中に、やる気を引き出すチャンスがたくさんあります。

「おかあさん教えて」、「おとうさんと一緒に考えよう」など、親子でともに学ぶ経験は、子どもたちの励みになります。学習に対する意欲は、「できた!」「わかった!」という子どもの達成感と、「すごいね」「よくできたね」というほめ言葉や認め言葉によって高まります。

しかられてやる気になることは少ないと思います。やはり、子どもの気持ちに寄りそって、「認めて・ほめて・励まして」やることが、やる気を育てることにつながります。



ポイント3 読書や体験をととして、子どもの学びを深めましょう

- 「読書好き」は「学び上手」につながります。

学力を高める上で、即効性がないかのように見える「読書」。しかし、「読書」によって「考える」習慣を身に付けておかないと、土台のないところに家を建てるのと同じで、学力は向上しません。



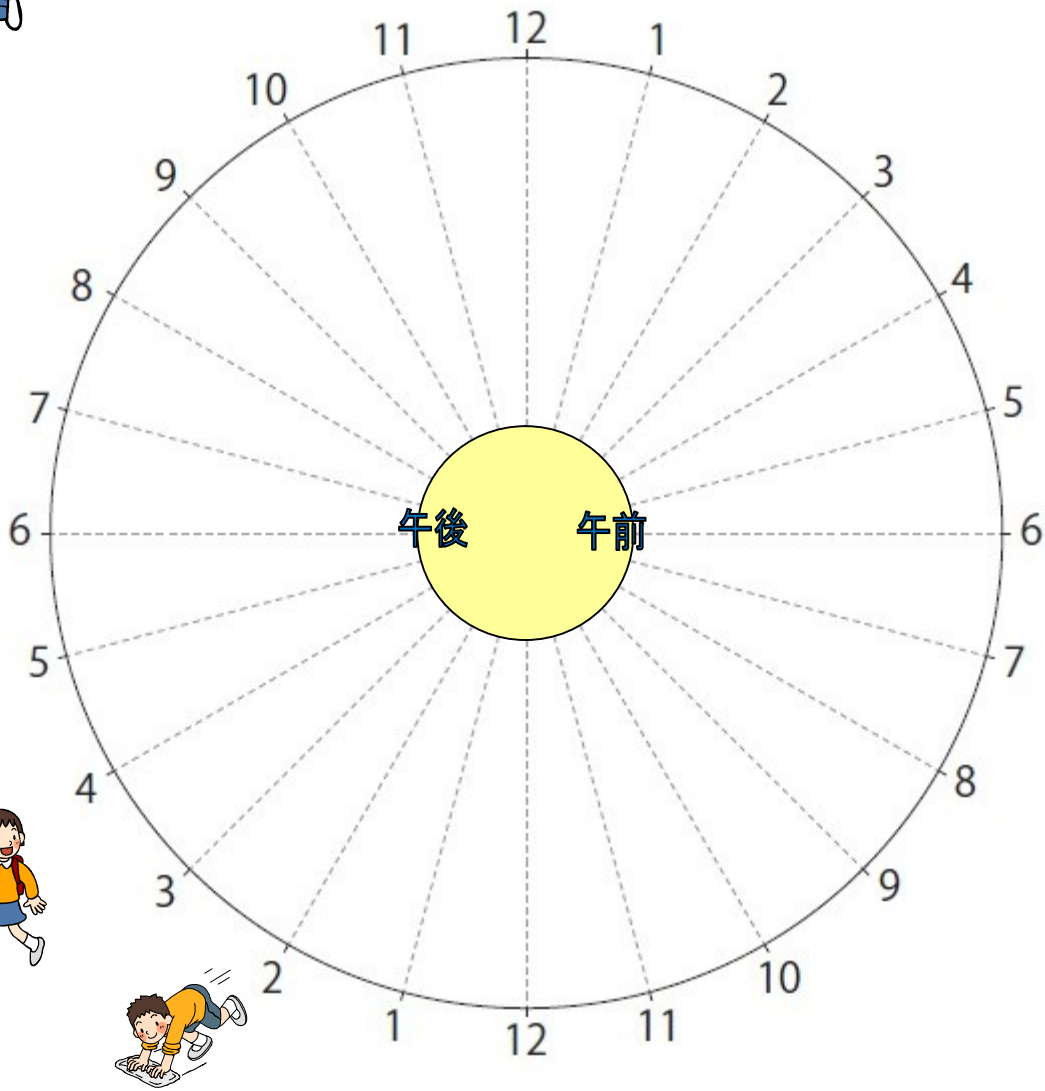
- 体験は心をたがやし、豊かな感性を育みます。



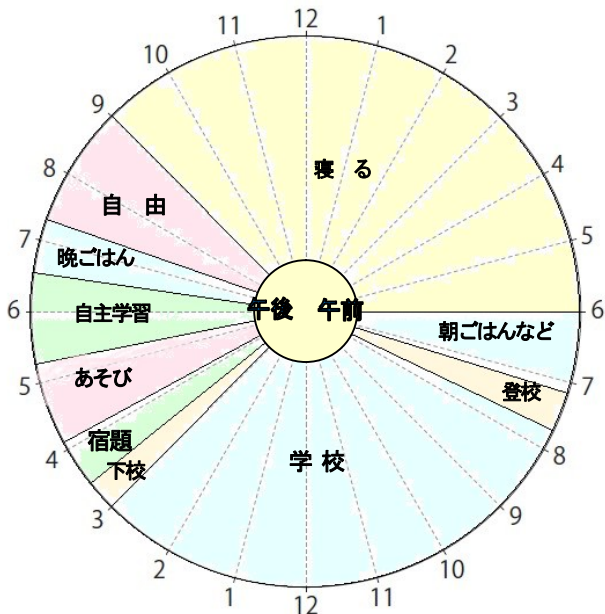
体験は人を磨きます。体験することで得られる感動や喜びは、子どもたちを「次なる興味」へと導いていきます。感性が鋭いこの時期にこそ「見て・ふれて・確かめる」体験を積むことは、とても大切なことです。



1日の計画を立ててみよう



例えば・・・



土曜日・日曜日などの休日の分も作ってみましょう。

おうちの方といっしょに考えて、1週間の計画もできるといいですね。



家庭学習を習慣化させるためのヒント集

家庭学習の習慣化には、時間がかかります。

保護者からすると、「昨日はしっかりできたのに今日はやる気が感じられない...。」とか「何度も注意しているのに鉛筆すら持たない...。」など、お子さんの行動にイライラしてしまうこともあるのではないのでしょうか。

では、どうすれば望ましい学習習慣が身に付けられるのでしょうか。

ここでは、家庭学習の習慣化を図るヒントを掲載しています。

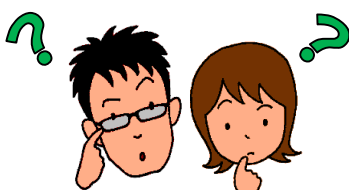


お子さんの様子を見て、思い当たるところはありますか？

宿題など、やるべきことを後回しにしていますか？

休みの日、家の中ばかりで過ごしていませんか？

本を読む習慣はありますか？



学校の勉強についていけそうですか？

ヒント1 「宿題やったの？」と言われて、つつい不満顔の リカ さん

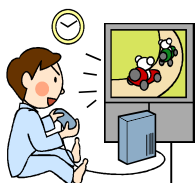


心の声はこうです。「今やろうと思ったのに・・・」
やらされるのではなく自らやる子どもになるといいですね。

「だめ!」とか「やめなさい!」とか否定的な言葉ばかりを使っていますか？
否定されれば、いやな思いはしたくないと何事も自分から進んで取り組もうとしないクセがついてしまいます。

意欲の芽生えをつみとることなく、お子さんの意欲を高めるよううまい声かけが必要です。

ヒント2 休みの日にはいつも家にいる ケンタ くん



目で見て、耳で聞いて、手でふれて... **実体験**は子どもの感性を磨きます。
図書館・博物館・美術館などに出かけたり、親子でイベントに参加したり、近所を散歩したり、スーパーなどで一緒に買い物をしたりしてみましょ。外出することで、様々な情報が飛び込んできます。

いろいろな経験・体験に裏打ちされて、考える力、生きる力が育まれます。

ヒント3 本なんかぜんぜん読まない ツヨシ くん



無理やり読ませようとしても、本を読むようにはなりません。

子どもの好奇心や興味・関心をつかんだ上で、まずは好きなジャンルの本を一冊与えてみましょう。できれば、保護者も同じものを読んでみてください。共通の話題ができます。

また、周りにいる大人が本を読む姿を見せることは、子どもの読書習慣づくりによりよい影響を与えます。

そのほか、教科書などの音読を聞いてあげるのもよいでしょう。学校の宿題になることもあると思います。「難しいことやってるんだね」「いいお話だね」と、ぜひ声をかけてください。大人からの認めの言葉は、やる気を引き出します。

読書することの魅力を、ぜひ子ども時代に感じとらせてください。



ヒント4 学校の授業についていけないのか不安な ミチコ さん

学校の授業がだんだん難しくなって、テストなどで満足できる得点がとれなかったりすると、だれしも不安がつのります。自信をなくしているお子さんに、「なぜ、こんなこともできないの？」は、もちろん逆効果です。

お子さんは、『わかるようになりたい』『できるようになりたい』と必死なのです。その気持ちに寄りそってください。

勉強は、一段一段積み上げていくものであり、『わからないこと』を学習するものなのです。わからないことは決して恥ずかしいことではありません。中学年の算数でつまずいているのなら、低学年のひとケタのたし算、ひき算、九九の勉強にもどってやり直せばよいのです。基礎を学び直すことで、ミスも減ります。わかったような気になっていたり、わかったフリをしていたりすることはいいことではありません。

子どもが「これよくわからない。」と訴えてきたときがチャンスです。真剣に向き合いましょう。加えて、「すごいね！やればできるじゃない。」という励ましや「これむずかしいね。いっしょに考えよう。」と寄りそう姿勢が、子どものやる気をより大きく強いものにしていきます。



教育委員会では、ホームページ「**家庭学習のすすめ**」**サイト**を通じて、お子さんといっしょに取り組める家庭学習の素材（各教科）を配信しています。

ぜひ、利用してみてください。

「家庭学習のすすめ」サイト

☞ <http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2011/kateigakus.html>

また、子育て支援サイト「**親力アップいきいき子育て広場**」も参考にしてください。

☞ http://www.kplaza.pref.chiba.lg.jp/emanabi_pc/

当リーフレットに関するお問い合わせは 指導課学力向上室（043-223-4056）